

パブリックコメント意見整理表（くらし・環境分科会）

【資料2】

No	基本政策	施策	ページ	区分	ご意見の内容	市の考え方	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
----	------	----	-----	----	--------	-------	------------------	-------

06 生活・環境（P45～46）

1	序論・基本 構想	序論	7	意見	1 0「脱炭素社会の実現」を削除し「移動自由度の高い社会の実現」に差し替えて 市民アンケートで最も多かった「交通の利便性強化」は市民の重要課題です。 ●旅行や仕事で使う高速交通手段の充実（新幹線、航空便数、自動車道の充実） ●日常の買物、通院などの交通手段の維持（路線バス、タクシー、送迎ボランティア）	「⑩脱炭素社会の実現」は、近年の気候変動等に対応するため必要であり、計画で見据えるべき社会の潮流として削除できないものと考えます。 「交通の利便性強化」については、ご指摘のとおり必要な観点と考えておりますので、「⑨コンパクトなまちづくり」の中で交通について記載します。また、交通手段の充実・維持の内容については、社会の潮流ではなく、施策の内容として整理を行います。	⑨コンパクトなまちづくり ○人口減少が進む中でも元気なまちを維持するためには、都市機能を効果的に誘導し、集約することで、まち全体の利便性を上げることが大切です。 ○これに合わせて、集約した各拠点を結ぶコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりが必要です。	⑨コンパクトなまちづくり ○人口減少が進む中でも元気なまちを維持するためには、都市機能を効果的に誘導し、集約することで、まち全体の利便性を上げることが大切です。 ○これに合わせて、集約した各拠点を公共交通等で結ぶコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりが必要です。
2	6生活・環 境	脱炭素が当 たり前の社 会の実現	46	意見	脱炭素が当たり前の社会の実現の論点要望 市町の事業目標とは思えないので削除してもいい。この数十年、佐賀市でも高校生の減少などで自転車利用とバス利用は減っており、過大な目標は避け、再生可能エネルギーの現状が1割程度なら目標は3割程度とかの実際的な目標にすべき。	気候変動問題への対応は今や人類共通の課題です。そのような中、我が国は、2030年度の温室効果ガス46%削減、2050年のカーボンニュートラル実現という国際公約を掲げ、気候変動問題に対して国家を挙げて対応する強い決意を表明しています。併せて、本市においても、令和2年10月にゼロカーボンシティを表明し、その実現に向けて「第3次佐賀市地球温暖化対策実行計画」の策定を進めています。 本実行計画の目標達成のためには、2040年の「脱炭素が当たり前の社会の実現」が必須であり、その実現に向け具体的な削減目標を定め、市民、事業者及び行政それぞれが、担う役割と責任を明確にして行動することが求められます。また、エネルギー削減の取組により豊かなくらしを実現し、持続可能な社会の実現を目指す必要があります。		

08 防災・安全（P49～50）

3	序論・基本 構想	序論	6	意見	02 激甚化する災害への備え に追加 地震、大規模火災を追加してください。今回の能登半島地震を見れば、佐賀市でも直下大地震の恐れはあります、私は「地震」と「大規模火災」が心配です。 (市も市民も佐賀に地震はないと思いがちなために)	「地震」について追記します。	②激甚化する災害への備え ○気候変動により、多くのまちで10年間に1回以上の水害が起きています。	②激甚化する災害への備え ○近年、日本の多くの場所で、水害、地震等の自然災害が発生しています。
4	序論・基本 構想	序論	6	意見	②激甚化する災害への備え 激甚化・頻発化する災害により、令和元年8月の前線に伴う大雨のような同様の被害に見舞われることが考えられる中、「災害が発生した際には被害ができる限り小さく済むように、自助・共助・公助が連携して日頃からの十分な備えを行う」という社会の潮流認識に賛同いたします。 なお、ご指摘のあった減災とともに、激甚化している災害を踏まえると、復旧・復興の備えも重要な視点ではないかと考えます。	「復旧」の意味を含む「防災」という文言を用いて修正します。	②激甚化する災害への備え ○災害が発生した際には被害ができる限り小さく済むように、自助・共助・公助が連携して日頃からの十分な備えを行うことが必要です。	②激甚化する災害への備え ○このような状況の中で、自助・共助・公助が連携して、防災対策を十分に行い、備えることが必要です。

No	基本政策	施策	ページ	区分	ご意見の内容	市の考え方	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
5	8 防災・安全	総合的な防災・危機管理対策の充実	49 50	意見	<p>「素案」の49ページ 08 防災・安全 について</p> <p>令和3年度以降の佐賀市は大雨時の浸水対策として雨水幹線水路の整備費に年間10億円以上を計上し調整池や水路の整備が進んでいる。その一方で地震発生時の減災対策となる住宅の耐震診断や耐震補強などの利用者は少なく対策が進んでいるとは言えない状況にある。耐震診断や補強の補助率を引き上げたり、対象となる市民を何回も訪問できる体制を整えて、排水対策の1割程度（年間1億円以上）の執行を実現すべき。</p> <p>また別途に年間1億円以上の予算を計上して避難所の設備や備品を充実すること。</p> <p>さらに、大世帯自治会では自治公民館に防災グッズを備えても円滑な活用は困難となりそうなので、数十世帯に1か所あるゴミ集積所などに消火器などを備えて、緊急時に声が届き、顔が分かる近隣での助け合いを促す対策を講じること。</p> <p>浸水災害と直下大地震災害の被害額リスクを年平均に試算してみたら、それほど違いがないと思えるので、それらに備える意識は同程度を保ち物理的備えは事業費的に今よりも均衡できないか議論検討すべきである。</p>	<p>○住宅の耐震化については、「09都市・交通」分野の「魅力ある居住環境の創出」として、ひきつづき耐震化を促進する取組を図ります。</p> <p>○避難所設備や備蓄品については、毎年度一定の予算を計上し、災害に備えています。引き続き取組をすすめます。</p> <p>○校区自治会や単位自治会において「自主防災組織」を立ち上げ、日頃から防災活動に取り組んでいただいています。その活動や地域に応じて必要な防災資機材整備に対して市から補助を行っています。引き続き活動を支援するとともに、自主防災組織の立ち上げに対しても支援を行ってまいります。</p>		
6	8 防災・安全	総合的な防災・危機管理対策の充実	50	意見	<p>防災・安全 の論点要望</p> <p>会員400世帯以上の大規模自治会でも自治公民館にのみ防災グッズを備えれば対策済みとしている。これでは避難用品以外の活用は困難なので、数十世帯に1か所あるゴミ集積所にも消火器などを備える対策も必要と考えられる。</p>	<p>市では自主防災組織に対して活動や地域において必要な防災備蓄品整備に対して補助を行っています。また、必要な防災用品については、各世帯における備蓄品等の準備もお願いしています。引き続き自主防災組織に対して支援を行うと共に、市民に対する啓発を進めていきます。</p>		
7	8 防災・安全	激甚化・頻発化する水害に備えたまちづくり	49 50	意見	<p>08防災・安全</p> <p>地域防災力向上のための防災リーダーの支援や育成は、市民の生命・身体を守る重要な取組と捉えており、賛同いたします。</p> <p>また、令和元年8月の前線に伴う大雨等の災害を踏まえ、「激甚化・頻発化する水害に備えたまちづくり」の各項目に賛同いたします。なお、既に記載されているように、河川改修等による外水対策はもちろん、当市の特徴的な内水氾濫対策も計画に推進していただきたい。</p>	<p>水田が広がっている平野部は水路が縦横に巡り、水位が保たれています。また潮汐の影響を受ける平野部は大雨時に水がはげにくいので、外水対策や内水対策として、これまでに排水機場や水門などの施設が数多く設置されています。</p> <p>近年頻発する豪雨による浸水被害を最小限に留めるため、これらの地域特性を生かして、水路の事前放流による水位低下、田んぼダムやお濠による流出抑制、加えて関係機関と連携した施設操作など、既存施設の能力を最大限に活用した内水氾濫（排除）対策を行っています。</p> <p>今後も引き続き、対策を継続するとともに、近年の気候変動を踏まえながら、個別計画（佐賀市排水対策基本計画）に沿って計画的に推進してまいります。</p>		
8	8 防災・安全	地域ぐるみによる生活者の安全確保	49 50	意見	<p>08防災・安全</p> <p>地域ぐるみによる生活者の安全確保に掲げられている、各項目につきハード・ソフトの両面から備えを充実することに賛同いたします。特に、小学校入学に伴い子供は急激に交通事故および犯罪被害に巻き込まれるリスクが増加する（交通事故総合分析センター・交通統計、警察庁・犯罪白書等参考）ため、「①交通ルールの遵守や交通マナーの向上に向け、交通安全教育の推進や啓発など、交通安全対策の充実を図ります。」および「③地域の防犯活動を支援するとともに、犯罪が起こりにくい地域づくりを推進します。」については、小学生等に特化した取組を推進する必要があると考えております。</p>	<p>取組方針に対するご賛同ありがとうございます。</p> <p>本市としましても、ご意見いただいたとおり、小学生等に特化した取組を推進していく必要があると考えております。</p> <p>現在、希望する保育園・幼稚園等やほとんどすべての小学校に出向いて交通安全教室を実施しているほか、警察や学校、自治会等と一緒に実施している「通学路合同点検」を通して、通学路における交通安全対策や防犯面での危険個所の把握と対応などを行っているところです。</p> <p>今後も児童・生徒を守るため、引き続き交通安全や防犯の取組を推進してまいります。</p>		

No	基本政策	施策	ページ	区分	ご意見の内容	市の考え方	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
----	------	----	-----	----	--------	-------	------------------	-------

**09 都市・交通 (P51~52)**

9	9 都市・交通	暮らしを支える安全安心な上下水道の整備	52	意見	<p>防災・安全 の論点要望</p> <p>能登半島地震による上下水道被害の深刻さをニュースで見聞きし、ライフラインの耐震化が極めて重要だと市民として強く感じている。佐賀市上下水道の耐震化対策は本当に大丈夫なのか再チェックすべき。例えば城北団地に大型（100㎡？）の金属タンクを設置してあるが耐震性は十分なのか？</p>	<p>水道管及び下水道管については、布設場所や年度、管種などの状況について把握しており、計画的に耐震化対策を進めています。</p> <p>水道管については、拠点病院や避難所などの重要な施設に給水するための重要管路や耐震化されていない管路を優先対象として更新を実施しています。</p> <p>また、下水道管については、緊急輸送路に埋設された管や避難所からの汚水を受ける管などの耐震化を優先的に取り組んでいるところであり、あわせて下水道の地震被害の特徴であるマンホール浮上についても防止対策を実施しています。</p> <p>今後も計画素案の主なポイントに「地震や風水害に強い上下水道であること」を掲げ、災害時にも継続的にご使用いただけるように施設や管路の耐震化対策に取り組んでいきます。</p>		
---	---------	---------------------	----	----	--	---	--	--